

と青森県建設業協会
東北地方整備局
東北建設青年

津軽ダムで体験型現場見学会

中学生対象に管内初の開催

国土交通省東北地方整備局と東北建設業青年会による中学生を対象とした「体験型現場見学会」が18日、西目屋村の津軽ダム工事現場内において開催された。

これまでは、高校生・大学生を中心に、建設業界の人材確保に向けた活動を実施してきたが、近年の少子化・建設業離れが進んできていることから、さらに若い世代の好奇心旺盛な中学生を対象に、建設業に興味を持ってもらうことを目的とするもので、東北管内では初めての実施となる。

はじめに、津軽ダム工事事務所の遠藤調査設計課長、青森県建設業協会青年部会の今後順会長（今与建設副社長）の挨拶があり、建設業の役割・重要性について説明があった。

現場学習は、コンクリートプレート作りと測量体験の2種類で、生徒、教員の約25名が2班に分かれ、説明を受けながら、慣れない作業ながらも真剣に取り組んでいた。

き固め、上面均し（物量体験（機器の正確さ作りをする魅力を感じてもらおう））
○測量体験（目測、歩測、テープ測量、光波測距儀を使用した測

量体験（機器の正確さを認識してもらおう）
○測量体験（目測、歩測、テープ測量、光波測距儀を使用した測

建設業では担い手不足が大きな課題のひとつになっている。行政、業界ともにそれぞれの立場から取り組みを進めているところだが、今年7月以降、若年者を対象として各種催しが開かれてきた。子どもたちの重機による操作体験、あるいは夏休み公開講座など。これらの主催は県土整備部監理課、中弘南黒建設協会・青森県建設業

協会青年部会中弘南黒支部、中泊町建設業協会、東北地方整備局・東北建設業青年会、また山形砕石のように企業独自の例もあった。開催順から紹介すると▽7月10日に弘前市の水辺プラザで「川でふれあい建設フェア2014」（中弘南黒建

▽7月24日公開講座「実は面白い！土木・建設について知ろう」（県監理課、▽8月11日第10回なかどまりまつり「建設業体験コーナー」（中泊町建設業協会、▽8月18日津軽ダムで「体験型現場見学会」（本面上段の記事参照）
これらの催しが今後も継続して行われ、建設業界への理解が深まることを願いたい」とのこと。本紙では催しがあったつと記事掲載をしてきたが、その時の写真を中心に催しの雰囲気を感じていただくことにしたい。



【測量体験】



【コンクリートプレート作り】



【挨拶する今俊順会長】



【公開講座は家族連れで】



【中里町建設業協会の建機試乗会】



【「川でふれあい建設フェア」でつかみ取りを行う子供たち】



【超大型重機のバケットの中でパチリ】

理解深める催し
あちらこちらで...